

緒言

山本卓明

Takuaki YAMAMOTO

福岡大学医学部整形外科

わが国は超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸は喫緊の課題となっています。なかでも骨粗鬆症に伴って発生する脆弱性骨折は、寝たきりの原因ともなり、整形外科的にもその対応が求められています。さらに近年、骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折が関節内にも発生することが報告されてきました。

その代表的疾患が、大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折(subchondral insufficiency fracture : SIF)です。これまで、大腿骨近位部骨折は、転子下、転子部、頸部骨折という分類しかありませんでしたが、骨脆弱性を基盤として大腿骨頭の軟骨直下にも骨折が発生するということがわかりました。SIFは、進行した場合は大腿骨頭に圧潰変形を来し、手術的治療が必要となる場合も多くあり、本骨折を早期に診断し、適切な治療を行うことは、外科的治療の回避にも繋がります。日常診療において本骨折の認知度を向上させ、適切な診断と治療を行うことが、今、われわれ整形外科医に求められています。

加えて、本疾患概念の提唱により、これまで原因不明とされてきた疾患、例えば、急速破壊型股関節症、一過性大腿骨頭萎縮症、特発性膝骨壊死についても、その病態解明が進んできています。さらに本骨折は、高齢者のみならず若年者にも発生すること、股関節以外の膝関節、肩関節でも発生すること、そして腎臓移植後にも発生すること、などが次々と報告されており、注意すべき重要な疾患の1つになってきています。

本特集では、軟骨下脆弱性骨折の診断と治療方針、そして、本概念に基づいて、これまで解明されてきた内容について、それぞれの分野に造詣の深い先生方から総括していただきました。日常診療そして今後の研究の参考となりましたら幸いです。